Canon キヤノンITソリューションズ株式会社

ニュースリリース

2009年11月24日
キヤノンITソリューションズ株式会社

～「安全・安心・安定」をコンセプトとした機能強化～
EdianWing(エディアンウィング) 新バージョン6.0を新発売

キヤノンマーケティングジャパングループのキヤノンITソリューションズ株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：武井 尭、以下キヤノンITS）は、高機能ページレイアウトシステム『EdianWing』の新バージョン6.0を2009年11月24日（火）より販売開始します。

「EdianWing」は、伝統的な日本語組版技術を搭載した多ページの紙誌面編集を得意とする組版システム商品で、国内の約400社の印刷社・新聞社にてご導入いただいています。従来より、充実した対話組版機能と、豊富な独自タグによる自動・半自動バッチ組版機能の両方を装備しているため、校正を繰り返す編集作業の現場においては、DTPパッケージに比べ圧倒的に高い生産性の実現を可能にしています。

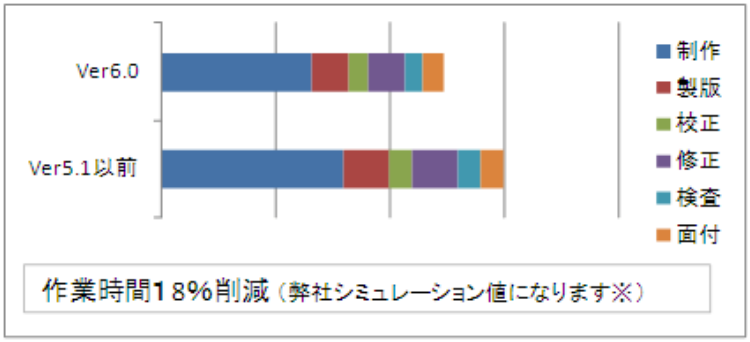
■「安全・安心・安定」
本日発表の新バージョン6.0は、現バージョンをご利用のお客さまからのご要望を取り入れて機能追加しました。今回の開発コンセプトは「高生産性」に加え、事故防止という面での「安全、安心」、高品質な制作物出力という面での「安定」の3点です。
具体的には、入力機能強化、表組機能強化、修正漏れ・「先祖がえり」などの事故を防止するための紙誌面編集の校正履歴管理機能、面付けアプリケーション連携を実現する出力機能強化を実施しました。
本日発表の新製品は、年間1,000台の販売を見込んでいます。

製品名	価格（税別）	発売日
EdianWing6.0	350万円※	2009年11月24日

※導入および設置費用が別途必要となります。

＜EdianWing6.0の主な特長＞

1. 高生産性
入力・編集機能では、PDFデータ取り込み、表枠の一括変更など、30項目を超える機能改善を実施。従来工程に比べ編集作業ステップの短縮を実現。



※制作時間が8時間の制作物、修正1回を想定しています。
※制作、製版、修正作業は、全体の20%を新機能に置き換えた値です。
※面付け作業は、全体の15%を新機能に置き換えた値です。

2. 安全・安心・安定
紙誌面編集の校正履歴管理機能を搭載し、校正中データや下版済データなどの任意の編集データを保存し比較検査を実現。
これによりプリプレスの文字画像割付工程で検版精度が飛躍的に向上し、校正作業漏れ等の事故を防止。
さらに、面付けアプリケーション連携では、ページ物編集データを単ページ出力データ（PS、PDF）と、色数やページ番号などの情報を一覧表として出力。次工程の面付けアプリケーションと連携。
これにより、修正のあったページの半自動での差し替えが可能となり、差し替え事故防止と作業時間の削減を実現。

＜EdianWing6.0の主な新機能および機能強化点＞

■ PDFデータ取り込み機能
PDFデータを画像取込みパネルから記事に取り込むことができるようになりました。
複数ページのPDFデータもページ単位に分割して取り込むことができます。

■ 表枠や文字領域などの設定
機能表枠や文字領域などのサイズ変更を0.01%単位で変更できるようになりました。
複数のセルのサイズを一括で変更できるようになりました。

■ 既存編集データの用紙サイズの変更設定機能
記事を複写し、用紙サイズが異なる文書へ貼り込むことができるようになりました。

■ 文字列の属性など検索／置換対象を大幅に拡張
検索／置換対象に「ぶら下げ」「禁則」「分離禁止」「文字間」「行間」が追加されました。

■ 各種枠内からのあふれ文字の強調表示
表枠のセル、文字領域、浮動枠、反射枠などから溢れた文字を赤いフチつけて強調表示するモードが追加されました。

■ 編集データの校正履歴管理
編集データの校正状態を履歴に残し、校正完了時にPS / PDFデータ形式で保存できるようになりました。

■ 出力機能の強化
「読込規則一覧」「外字一覧」「画像一覧」「使用書体一覧」などのPDF出力ができるようになりました。
複数ページのPS出力時に1ページ単位での差し替えができるようになりました。
面付けアプリケーション用台割データ（CSV）を自動作成できるようになりました。

＜その他＞

■ バージョンアップ価格
従来バージョンをご利用のユーザー様を対象に、EdianWing6.0をバージョンアップ特別価格にてご提供します（使用中のバージョンにより価格が異なりますので、個別の見積もりとなります）。

■ 販売経路
キヤノンITSおよび主要な印刷機材販売店より、それぞれのお客さまの設備状況およびご要望に合わせたシステム構成にてご提供します。

■ 開発元
株式会社管理工学研究所

© Canon IT Solutions Inc.